

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

絆

きずな

第58号 12月号

購読料1部100円

(会員は会費に含まれています)



ホームページアドレスが変わりました!

NEW

発行: 社団法人日本自閉症協会 発行責任者: 宍戸良朗
支部長&事務局: 河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10
TEL&FAX 0743-55-2763

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

今年を振り返って明日を夢みる!

自閉症協会奈良県支部の発足5年目の今年は、奈良県に自閉症の理解を深める絶好の機会となる年でした。9月25日の全国知的障害関係施設職員研究大会、奈良大会では自閉症協会前会長の江草安彦先生が記念講演をされ我が国の自閉症者の問題にふれていただきました。11月16日には自閉症協会理事の佐々木正美先生が最新のTEACCH情報を入れてくださいました。(重症心身障害児を守る会主催の講演で)ここ10年ぐらいで自閉の世界が見えはじめ、我々の外からのアプローチの仕方が確立されてきたようです。今後、奈良にも専門性を身につけた療育者が育つことが期待されます。支部が呼び出した門真一郎先生の講演それに12月8日に行う岡田先生のお話も大きな貢献があると思います。いずれ奈良県が自閉症療育の先進地になるかもしれません。本当にそうしたいですね。

先月号の絆で「自閉症総合支援センター構想」というのがあったと思いますが、あれは成人部の話の中で、奈良にこんな活動の拠点があればいいのにという内容でした。

そんなさなか、構想実現にいい場所をインターネットで見つけたのです。「自閉症児一人一人に専用のポニーを飼ってみては?」とか、「県内の作業所に作業場を提供しては?」「フルーツをいっぱい植えて自閉症者が自分の生活資金作りできないか?」など夢は膨らみます。

百聞は一見にしかずと、コッからさんのバスを無料でチャーターし、横木さんのご主人に運転手を

お願いし、成人部の会員とあすなる園作業所の中川君・松本君で物件散策に出かけました。場所は 大宇陀・室生方面です。まず、心境荘園にいきました。ここも広いです。

目的の所は、室生村西谷というところでした。競売物件で最低売却価格3376万円です。奈良市内なら5~6十坪の建て売り住宅の値段ですが、なんと、これは総面積288337㎡(八万7千526坪)甲子園球場全体の7.3倍というとても広く広い土地です。しかも117坪の古屋付きというものです。どうも相続税を払うための売却らしいです。

「だれか、競売で落札して、奈良県支部に寄付してくれる人はいないものでしょうか。などと話しながら、色づいた紅葉の室生寺によって帰って来ました。興味のある人はこの物件をインターネットで見てください。奈良地方裁判所葛城支部のホームページ

<http://www.chisaikatsuragi.com/> 地物件一覧(事件番号)13ヶ233です。地図と写真もあります。平成15年22~29日が競売入札期間です。

夢でなく実現するとよいですね。

(河村)



療育部活動報告

療育キャンプをしました！！

豊かな自然、晩秋のススキがひろがる曽爾高原にある国立曽爾少年自然の家で、11月23日(土)~24日(日)に一泊二日の療育キャンプを行いました。今回は、国庫補助事業・在宅重度障害児集団療育事業よりの補助金で取り組む事ができました。奈良より貸切バスで天理、桜井と寄り皆で行きました。今回のキャンプでは、講師の方々に、動作法、自然観察、音楽療法などを実践していただきました。また、スタッフに養護学校の先生も加わっていただき、私達の気付かないところをカバーして下さったおかげで、とてもスムーズにすすめることができました。お忙しい中、参加して下さいました先生方に心から感謝の気持ちで一杯です。また、曽爾少年自然の家の館内は構造化されていて、誰もがわかりやすいようにできていました。寒いと覚悟して行ったのですが、館内はとても快適でした。2名から利用できるの、家族やグループで行かれるのもいいかと思えます。利用料金もとても格安です。とりあえず、無事に一泊二日のキャンプを終える事ができましたのも、参加者皆様のご協力や先生方のお力添えをいただけたからこそだと思います。キャンプについて行き届かない所も多々あったと思いますが、今回の経験をいかして次のキャンプへとつなげていけたらと思います。今回参加いただいた方より、キャンプの感想を寄せていただきました。是非、読んでいただけたらと思います。(木村由子・記)

療育キャンプに参加して・・・

今回、はじめて療育キャンプに参加させていただきました。はじめての場所で、みなさんと一緒に行動できるか等、不安いっぱいに出発しましたが、役員の方々、スタッフの先生方のおかげで楽しく過ごさせていただきました。先生方も慣れた方ばかりで、建物も構造化されていて子供も安心して、過ごせたと思います。動作法は、先生がわかりやすい講義をしていただいた上での実践で理解しやすく、音楽療法は、みんなが一つになって楽しめた充実感がありました。先輩の子供さんやお母さん方にも、色々学べ、また頑張る意欲もわいてきました。参加させていただいて、本当に良かったです。(山形政代・記)

療育キャンプに参加して・・・

11月23~24日と初めて療育キャンプに参加させて頂きました。一日目は親子体操・動作法、二日目は野鳥や植物の観察・音楽療法と内容が充実していて、母子共に楽しむことができました。スケジュールを子供にわかりやすく提示していただき、先への見通しが持て、安心して過ごすことができました。夜、暗くなった外を見て、涙をこらえる娘の姿を見た時には、このキャンプが辛い思い出になるのでは・・・と思いましたが、そんな心配をよそに、10時就寝、6時起床。普段と変わらぬリズムで過ごすことができました。きっと良い思い出として、インプットされたと思います。ご指導頂いた先生方、お世話頂いたお母さん方、本当にありがとうございました。また来年も参加したいです。(河野みゆき・記)



「療育キャンプに参加して」

今回、自閉症協会奈良県支部 療育キャンプにおいて臨床動作法を簡単に紹介いたしました。臨床動作法の話や保護者同士の実技研修、さらには子ども達との動作法体験など盛りだくさんの内容でしたが、参加の保護者の方の熱心さと、動作法体験での子ども達の穏やかなゆったりとした取り組みの様子がとても印象的でした。

臨床動作法の技法は、初めての方にとってはとても特殊な技術のように思われがちですが、子どもとのからだを通したコミュニケーションは、日常のいろいろな場面でも実際行われていることであり、さほど特殊なことではないように思います。援助者自身(保護者)も楽しみながら実践していくことで、より充実したやりとりができるようになると思います。今回のキャンプでは、臨床動作法の入門編の体験となってしまいましたが、また機会がありましたら、それぞれの子どもの課題に応じた臨床動作法の応用編を紹介できればと考えています。

この療育キャンプに参加させていただいて、たくさんボランティアの先生方の気遣いやお母さん方のパワーに、私自身いっぱいの元気をおみやげに持って帰ることができました。とても「人に優しいキャンプ」でした。本当にありがとうございました。

最後に臨床動作法の文献を紹介いたします。

「姿勢の不思議」 著者:成瀬 悟策

講談社ブルーバックス

「リラクゼーション」 著者:成瀬 悟策
講談社ブルーバックス

「動作療法」著者:成瀬 悟策

成信書房

Mind and Body Activity
System

MaBA システム

臨床動作士

中野 弘治

療育部活動報告

今年度も11/3、11/4と2日間にわたり「ポニーの里」へ行ってきました。

3日は6家族10人、4日は11家族19人の参加を頂きました。

肌寒い2日間でしたが、子供たちは元気一杯お馬さんとのふれあいを楽しむことができました。

馬に乗ると皆、落ち着くところが不思議です。

子供たちに交じり、お母さんたちもドキドキしながら乗馬に挑戦！乗りごこちはいかがでしたか？

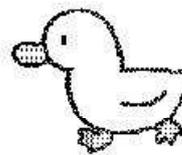
人数の関係で2日に分かれて頂き、4日の人数が多く物足りなかった人はごめんなさい。

又、ご家族で出掛けてみて下さいね。

無事終了できたのも「ポニーの里」のスタッフのおかげと感謝しております。

大勢のご参加、ご協力ありがとうございました。

(田中 尚実 記)



会員紹介(療育部編)

光野裕未(平成5年9月15日生まれ)

今年4月に岡山から主人の転勤で、奈良に引越してきました。家族は父・母・姉(小4)との4人家族で、西の京養護学校の小学部三年生の女の子です。本が書けるくらい問題行動いっぱいの保育園の三年間が終わり、毎年、頭を抱える長期休暇でしたが、初めて楽しいと思えた二年生の夏休みが終わるころに主人の転勤辞令。半年間、主人には単身赴任をしてもらい、何度も奈良に足を運び、裕未にこれから奈良に住むことを少しずつ、見て・聞いて・感じてもらいました。その甲斐あってか、日常生活は大きく崩れることもなくスタートできました。学校生活は、始めのころ4月は行事も多くて泣く事も多かったようですが、5月くらいには、慣れてきて大きな顔をして、すっかり西ノ京の子になっています。言葉のない子だったので、なんとか1つ

でもコミュニケーションの手段を身につけてもらいたいとの願いから文字を入れた療育をしていたのですが、なんとか単語を文字や絵で書いて知らせてくれるようになったら、少しずつ表出言語も出始め、今では、「学校行こう、ププー」と言いながら、ハンドルを動かすジェスチャー付で言えるようになってきました。少しずつですが、成長をしている娘のサポートをしていく上で、奈良での情報がたくさんほしいので、お教えください。これから、どうぞよろしくをお願いします。



岡澤夏子

早いもので娘も今年9歳になりました。娘は私がタイで勤務していた頃、バンコクの病院で生まれました。3月生まれですがちょうどタイでは一番暑い季節でもあり、夏子と名づけました。しゃべりだすのも早く、成長については何の心配もしていませんでしたが、2歳ごろから段々言葉やコミュニケーションが少なくなり、現地の病院でも相談を受けたりしましたが要領を得ず、妻が小さな子を飛行機に乗せ日本に帰り病院を数件回った結果、自閉症と診断されました。この障害の内容を知ったときは夫婦ともどもかなりショックを受け、まず親自身が現実を受け入れるまでかなり時間を要しました。今ではほとんど思わなくなりましたが、何年か前まである日突然娘が普通の子供に戻ってくれないだろうかなどとよく夢に見たものでした。娘は今、小学校

の障害児学級に通っています。言葉を話せず、字も書けず、できないことだらけですが、最近ではできないなりに友達が周りに集まってくれるとうれしそうな様子を見せたり、下校時に手を振ったりと少しずつコミュニケーションできるようになってきました。娘のことを嫌わず接してくれる小学校の子供たちには本当に感謝していますし、こうやってこの子はゆっくりでも成長しているのだと思えば気も楽に持てるようになりました。家庭内でも娘の周りに明るい雰囲気を作るよう努めています。幸い根暗な父に比べ娘は根が明るいので助かっています。最後に会計の仕事ではたいした事もできておりませんが、皆様には日頃大変お世話になっておりますこと御礼申し上げます。

岡澤正明

11月28日、下記のような連絡を受けました。緊急とのことであり締め切りに時間がないので、幾人かの連絡のとれる会員の意見を聞きました。それをもとに、支部長河村の判断で自閉症協会奈良県支部も賛同者として加わるむね堀江氏に伝えておきました。以下の内容です。事後承諾になりますのご理解の程よろしく申し上げます。

社団法人日本自閉症協会奈良県支部

支部長 河村舟二
内容

.....
緊急連絡(お願い)

「新障害者計画」に係る要望書の提出について
呼びかけ人
堀江まゆみ(社会福祉法人愛成会理事長/
白梅学園短期大学)
岡部耕典(心のバリアフリー市民会議
事務局長)
藤内昌信(NPO法人小平だれもがともにネット
ワーク理事長)

平素はお世話になっております。さて、すでにご承知かと思いますが、現在厚生労働省が策定中の障害者プランがいよいよ最終段階に入りました。この新計画の中では、これまでないがしろにされてきた地域生活支援の諸施策が抜本的に見直され、強力な予算措置が図られる必要がありますが、さまざまな情報を総合すると、情勢は厳しく決して予断を許さないようです。

今全国・地方を問わず、地域福祉の充実が急務と考える団体や個人が、厚生労働省や国会議員に要望書を提出しています。内部事情に詳しい人の話によると、要望書は出来るだけ多く、重ねて出すほど効果があるということです。

こうしたことから、私たちは、別添要望書を作成し、出来るだけ多くの賛同団体名(個人で賛同される方は個人名でも可能です)を列記し、国会の厚生労働委員会全議員、東京都選出全議員に届けます。同様のものをすでに出したからと遠慮することなく、要望内容に賛成のすべての団体・グループ・個人が賛同者になってくださるよう期待します(出来るだけ、団体として賛同いただけますとありがたいです)。ご多忙のところまことに恐縮ですが、11月30日までにご連絡ください。

下の返信用紙を用意しましたが、所属とお名前をFax、e-mailでご連絡いただくことでも結構です。なお、要望書に記載するのは、正式団体名、代表者名、所在地(在住地;市長村名)となります。

なお、お知り合いの団体等ございましたら、「呼びかけ」を広げていただければ幸いです。

返信が重なった場合はこちらで調整させていただきます。

*この件に関するお問い合わせ等ございましたら、白梅学園短大堀江まゆみ(090-8451-0535)まで

返信用紙

要望内容に賛同し、賛同団体名の列記に同意します

正式団体名
代表者
役職名
氏名
住所
TEL
FAX
Eメール

* 返信先:FAX:042-346-5644
(堀江宛、明記下さい)

=====

国会議員各位

2002年11月27日

知的障害者の地域生活支援基盤の拡大強化に
ついての要望書

わが国には公的機関で認定された知的障害者が約46万人います。その約3割が入所施設を利用し、約7割が地域で暮らしています。一方予算面から見ると、知的障害関係予算の約7割が入所施設に向けられ、地域支援の予算額は極端に低く抑えられてきました。この結果、地域で暮らす多くの知的障害者は、十分な福祉サービスが受けられないままに経済的にも困窮し、苦しい日常を余儀なくされています。

ご承知のように、日本を除く先進諸国はすでに10年ほど前から入所施設の減、あるいは全面閉鎖を着実に進め、この面でのわが国の福祉の後進性が諸国の批判を受けてきました。こうした中、平

成 15 年から福祉の基礎構造改革が断行され、利用者自らが必要なサービスを選択しながら地域で暮らすことを保障する新たな制度(支援費制度)がスタートすることは、まこと喜ばしい限りです。北海道における調査(平成10年北海道知的障害者施設協会実施)によれば、「施設でこのまま暮らしたい」と考えている入所者は全体の18%にすぎず、圧倒的多数の人が地域の暮らしを望んでいます。11月22日の朝日新聞1面トップの記事は、宮城県船形コロニーが「施設解体宣言」を行い、485人の入所者を10年までに地域のグループホームなどに移すと報じています。こうしたことから見ても、知的障害者の地域生活ニーズが今後急速に拡大することは明白です。

しかし、現実には本人が地域生活を望んでも、それを支える地域生活支援基盤は量質ともに不足し、施策も脆弱な現状です。私たちは、内閣府が現在策定中の新障害者基本計画において、地域生活支援基盤整備を数値目標を伴う最重要項目と位置づけ、従来の入所偏重型の予算構造が抜本的に改められ、地域支援に十分な予算措置が講ぜられることを強く要望します。

なお、15年度より入所施設利用者の自己負担金が増額されることにより、この分の公費負担(推定約200億円)が減になることが予測されますが、私たちは、この費用は当然地域生活支援基盤の整備に充当されるべきものと考え、この点についてもあわせて要望します。

具体的な要望事項

1. 地域生活(グループホーム)の充実
 - 現行の年間承認数400箇所(1600人分)を毎年3000箇所(12000人分)に。単価の増額
 - 現行10月承認を、養護学校卒業時にあわせ4月承認に。
 - 家賃補助制度の創設
2. 日中活動の充実
 - デイサービス、通所施設および分場支援費の単価増額
 - 小規模通所授産施設、小規模作業所に対する助成の増額
3. 相談支援体制の充実
 - 知的障害者生活支援事業の助成額ならびに箇所数増
 - 障害児(者)地域療育等支援事業の助成額ならびに箇所数増
 - 障害者ケアマネジメント従事者の制度化

アスペルガー障害者等の 報道について

平成14年12月2日

各理事、運営委員、支部長 様
社団法人日本自閉症協会
常務理事 山本 衛



アスペルガー障害者等が起こした犯罪に関する
協会としての見解の発表等について

平成14年11月18日の公判において「全日空ハイジャック機長刺殺犯は精神病ではなくアスペルガー障害である。」との鑑定書が提出されました。公表された鑑定主文では「被告人の人格的な片寄りはアスペルガー障害のためであり、この障害のため社会適応に困難を感じ自らに最もふさわしい自殺方法をとろうとした。」としています。同日夕刊では、各紙ともこの公判について報道しましたが、新聞社によってはアスペルガー障害という障害名を伏せて「発達障害の一種」と報道したところ、「アスペルガー障害であった」と障害名を報道したところ、「愛知県豊川市の夫婦殺傷事件を絡めて報道しながらも、アスペルガー障害は、犯罪など反社会的行動を起こすのはごく例外的」とのコメントを併せて掲載したところ等、様々な形の報道がありました。こうした報道が予測される場合には、社団法人日本自閉症協会としても直ちにアスペルガー障害と殺人等重大犯罪等の関係について声明を発表する等機敏な対応が必要ではないかとのご意見がありました。

今回の事件については、来年1月31日に鑑定人の証人尋問が予定されており、その際にも再び同様の報道が予測されます。

そこで緊急ではありますが、当協会としての声明を準備したいと考えています。

また、各新聞社等へこうした事件を報道する際には、アスペルガー障害を持つ人達やその家族等に与える影響を十分配慮して「最低、こうしたことは抜かさないで報道してほしい。或いは最低、

こうしたことは報道しないでほしい。」といったようなことを申し入れる必要があるのではないかと考えています。

つきましては、声明等に盛り込んでほしいこと(文案でなくても可)等ご意見を頂きたいと考えています。時間が余りありませんので年内中にお願います。



お知らせ

平成14年11月21日

各 役員、運営委員、支部長様

社団法人日本自閉症協会
常務理事 山本 衛

「心を開く」の新しい名前の募集についてかねてより検討課題となっていました、当協会指導誌「心を開く」の名称につきましては、各支部からのご意見を参考に第34回理事会で審議され、変更することに決まりました。

つきましては、下記要領にて協会の指導誌として相応しく親しみやすい新しい名前を募集いたします。

各会員等へのお知らせは、「いとごNO78」(平成15年1月号)で行う予定ですが、各役員、運営委員、支部長におかれましてはいろいろな機会にPRしていただき、積極的に応募していただくよう呼びかけていただきたくお願い申し上げます。また、会員個人や関係者等からのご応募だけでなく、各役員等の皆様はもちろん支部

としても積極的にご応募いただけると幸いです。応募いただいた中から検討を行い、平成15年度総会において、新しい名前を決め、平成16年2月発行の号より新しい名前による社団法人日本自閉症協会指導誌を発行する予定です。

記

応募方法: 下記応募用紙にご記入の上、Faxにて(E-Mail、葉書の場合は、必要事項を記入の上) 協会事務局まで

Fax 03-5273-8438

E-Mail asj@mub.biglobe.ne.jp

葉書

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8 社団法人日本自閉症協会

締切

平成15年2月28日

指導誌新名称応募用紙

指導誌の新しい名前:

(複数でも結構です)

投稿者のお名前:

ご住所:

電 話:

所属団体名又は所属名:

.....



療育部 新年会のお知らせ

日時

2003年(平成15年)1月16日(木)
11時30分から

場所

肉のさかもと(北海市場)郡山店

(美濃庄町西堂ノ前170-1)

国道24号線 大江町南交差点

(フジエダコーヒーのある交差点)より

奈良方面寄りに車で2分

JR・近鉄郡山駅よりタクシー5分

費用 1人 1800円前後

出席される方は1月9日までに連絡網上の役員まで。

多数のご参加お待ちしております。

自閉症協会奈良県支部のホームページ

「きずな」のURLの変更について

長らく利用していたjustne(一太郎の会社)がso-net(ソニ-系)に統合され無くなりましたので、これを機会にk-opti.com(関西電力系)に変更しました。

新しいホームページアドレスは http://www.eonet.ne.jp/~asn/ です。運営者の河村のメールアドレスも変更になります。今後は次でお願いします。kawafune@ares.eonet.ne.jpです。

お知らせ

**第9回 奈良YMCA LD児理解講座
LD児及び周辺児への関わり方**

一般的な知的能力には遅れはないか、聴く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得が困難なLD児・生、及びLDに近接しているADHDや自閉的傾向を持った子どもたち。それらの子どもたらにどのようなサポートが出来るのか？奈良YMCAでは1997年以来そのような問題を取り上げて、毎年理解講座を開催して参りました。本年度は、午前中に大阪教育大学の竹田契一教授に最新のLD情報を交えたお話を、また午後からは奈良県心身障害者リハビリテーションセンター精神科医長岩坂英巳先生にADHD児への援助方法などについてお話しただく予定です。

日時

2003年1月19日(日)

10:30 ~ 15:30

会場

奈良県文化会館小ホール

奈良市登大路町(近鉄奈良駅徒歩約5分)

講師

竹田契一先生 大阪教育大学教授

日本LD学会副会長

岩坂英巳先生 奈良県心身障害者リハビリテ

ーションセンター精神科医長

《プログラム》

10:30 ~

『LD児の理解と指導一環新の情報を基に - 』

竹田契一先生

12:00 ~ 休憩

13:00 ~ 『ADHDをもつ子どもとの理解と対応』

14:30 ~ まとめ 竹田契一先生

15:00 ~ 質問への回答

竹田 先生・岩坂 先生

定員 先着250名(託児はありません。)

参加費 ￥1,000

(午前の部又は、午後の部だけの参加の場合も同額です。)

申込先 下記へお電話でご予約いただき、当日会場にて参加費をお支払いください。

主催 (財)奈良YMCA

後援 奈良県教育委員会 奈良市

奈良市教育委員会 国際ソロプチミ

スト奈良日本LD学会

《お申し込み・お問い合わせ》

奈良YMCA教育センター

TEL(0742)44-2291

FAX(0742)44-2292



自閉症協会本部から先の「いとご」に添付していた「自閉症児者の地域生活支援に対する家族・支援者等のニーズ調査」の集まりが悪いので再度提出を呼びかけて欲しいとの連絡がありました。まだの方は是非お送り下さい。また、「心を開く」の改名にもご協力お願いします。

自閉症児者のためのAJS互助会の申し込みパンフレットが事務局にあります。

入院給付金、死亡弔慰金、後遺障害見舞金、傷害ケガ見舞金、第三者損害賠償金のセットで内容が充実してきています。協会会員は年額18,000円 非会員は24,000円です。

第9回 奈良YMCA LD児理解講座「LD児及び周辺児への関わり方」

日時:2003年1月19日(日)

10:30 ~ 15:30

会場:奈良県文化会館小ホール

奈良市登大路町(近鉄奈良駅徒歩約5分)

講師:竹田契一先生 大阪教育大学教授

日本LD学会副会長

岩坂英巳先生 奈良県心身障害者リハビリ

テーションセンター精神科医長

申し込み:TEL(0742)44-2291

FAX(0742)44-2292

本部から平成15年度補助金等申込について奈良県支部の希望を聞かれています。

申込締切り1月30日です。皆様のご希望ご意見を役員さんにお聞かせ下さい。

(提出しない場合は、計画からはずれてしまいますので、ご注意下さい)

1.保護者研修

1.希望する 2.希望しない

2.福祉相談員

1.希望する 相談員 氏名

3.治療教育相談

1.希望する 2.希望しない

4.集団指導キャンプ(1泊2日)

1.希望する 2.希望しない

5.集団療育キャンプ(2泊3日)

1.希望する 2.希望しない

県社会福祉協議会から次のような通知がありました。

平成15年度 社会福祉・医療事業団

「地方分助成」の選考結果について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の件につきまして、平成14年11月15日に開催した推薦審査委員会での審議の結果、貴団体(法人)を社会福祉・医療事業団に推薦することとなりましたので通知いたします。なお、社会福祉・医療事業団での選考結果につきましては、平成15年4月上旬頃となります。

なお、申請していた今回のテーマは、「自閉症児者の生活支援と家族交流事業」です。

自閉症協会が主催する「自閉症支援システムシンポジウム」が今年は長野であります。

日時:2003年1月31(金)~2月1日(土)

会場:長野県県民文化会館小ホール

後援:厚生労働省・長野県・社会福祉

医療事業団

参加費2,000円 交流会費:5,000円

ご希望があれば事務局にパンフレットがあります。

内容は自閉症・発達支援センターの役割、今

後の期待、展望に関することです。

平成14年度第2回強度行動障害について理解を深める研修会

本年度第2回の研修会は、近畿で唯一の動く重症児(者)の病棟である国立療養所松籟荘(大和郡山市)の指導室長と看護師・保育士をお迎えし、松籟荘の現状と取り組み、及び重心病棟での行動改善事例の紹介等、医療療育の実践をお話し頂きます。松籟荘重心病棟では、毎年入所者の保護者及び職員対象に行動改善事例が発表され、本年度第5回目になります。過去には当研修会に於いても発表頂いておりますが、今回も地域での在宅の保護者の皆様及び重症児(者)を支援頂く方々に広くご紹介頂くことになりました。皆様のご参加をお願い致します。

日時:平成15年2月8日(土曜日)

13:00~13:30 受付

13:30~15:30 講演と事例報告

15:30~16:00 質疑応答

テーマ及び講師:

「国立療養所松籟荘重心病棟の現状について」

重心病棟指導室長 小笹良栄氏

「行動障害の改善事例報告」

重心病棟看護師 西尾幾久美氏

重心病棟看護師 中浜麻里子氏

重心病棟保育士 下司洋子氏

場所:奈良女子大学文学部北棟103教室

参加費:無料

奈良県重症心身障害児(者)を守る会

社団法人奈良県手をつなぐ育成会

社団法人日本自閉症協会奈良県支部

平成14年度 国庫補助事業・在宅重度障害児集団療育事業
 自閉症協会奈良県支部療育キャンプ2002年11月23日(土)～24日(日)
 国立曽爾少年自然の家で使われたレジメ

平成14年11月23日 MaBA システム
 中野 弘治

臨床動作法からのアプローチ からだほぐし・心ほぐし

1、動作(姿勢)と心

人は、日々からだを動かしながら生きている。何か心配事があったり、不安で気持ちが落ち着かない状態になると、からだの動きもそわそわした心もとないものになってしまう。また、ストレス場面で緊張している時は、いつの間にか、からだも硬くなっていくことが多くみられる。そうした不安定で緊張した状態が続くと、からだの隅々にうまく心を及ぼせることができなくなり、日常の動作もぎこちなく、自分の行動そのものが不確かなものとなっていく。

人の姿勢もまた、心の状態と大きく関係していると考えられる。例えば、自宅でくつろいでいる時や、公園のベンチで春の日差しをいっぱい浴びている時など、顔を上げからだの緊張を抜いた姿勢をとることが多い。このような姿勢は、外界からの刺激を受け入れることができる開いた姿勢と言える。一方、不安や悲しみがある時や考え事をする場合などには、上体を前屈みにさせ、背をまるめるような姿勢をとることが多い。このような姿勢は、外界からの刺激を制限する事ができる防衛的な姿勢であり、自分の内面に意識を向けやすい閉じた姿勢と言える。

このように、心の状態が姿勢に影響を及ぼすと同時に、姿勢からも心の状態に影響を及ぼすという相互作用があるのではないかと考えられる。

2、動作とは

「椅子から立つ」という人の動きを考えてみれば、何らかの理由から、からだの持ち主である主体(自分・自己)が立とうという意図を持ち、立つための無意識的レベルを含むプランニングを行い、自分の持ち物であるからだに対して命令を発

し、ある種の努力を行った結果として椅子から立ち上がる。このようなからだの動きの多くは、心理的なプロセスが介在して生じるものであり、主体の活動とは無関係にからだ勝手に動いているのではないことがわかる。

このプロセスは、「意図」-「努力」-「身体運動」と図式化することができ、意図と努力の結果としての身体運動を「動作」と呼ぶ。なお、ここでの努力は、歯を食いしばってがんばるという意味での努力ではなく、ある種の「心の活動」を行うことを意味する。

3、動作法の実際(からだを通したコミュニケーション)

からだを通した働きかけは、言葉によるコミュニケーションが難しい場合にきわめて有効なコミュニケーション手段となりうる。援助者との共同作業課題として設定される動作課題は、知的程度に関わりなくからだの実感としての達成感・成功感が得られやすい。

【肩のリラクゼーション】の場合

(椅子坐位・臥位)

どのような動作をすればよいかの設定・提示(トレーニーと援助者の位置関係を工夫する)

トレーニーが一人でからだを動かしてみても、不必要な緊張が入ったり、狙った動きができない自分に気づく体験。

トレーニーの肩に手をあて、課題の動きに沿わせるように、動作を誘導する援助の共同作業体験。(「～しましょうね」と声をかける)

動作中の微妙な動きの引っかかり、左右の動きのわずかな違い、背中 unnecessaryな緊張など、乗り越えることができる課題の設定・提示。

課題の乗り越え体験による成功感・達成感、自信と信頼感の形成。

上半身のリラックス感の確認。(心地よい)

ラックス感の体験)

援助者の心がけとしては、あくまでからだを動かしたり弛めたりするのはトレーナー本人であり、柔軟体操的に強引に力を加えることなく、相手の動きに沿わせ、からだを通した意志と意志のキャッチボールをするつもりで働きかけることが大切である。

4 からだほぐしの動作課題例

(1)リラクセーション課題

側臥位でゆっくりと上体をひねるように動かす。

(軀幹のひねり)

側臥位での肩・頸部位をゆっくりと伸ばす。

仰臥位でゆっくり腕をあげることで肩の力を抜く。(腕あげ動作)

・坐位姿勢(椅子坐位)で肩を後ろへゆっくり反らせる。

坐位姿勢で背を後ろへゆっくり反らせる(上体反らし)またはゆっくりまげる。

* リラクセーション課題のねらい

リラクセーションは、慢性的な筋緊張部位を弛緩することができるようになるための援助である。この援助は、援助者と共に力を入れたり抜いたりすることで、筋緊張を弛緩することができるようになり、リラックスした自分のからだを実感することをねらいとする。

(2)動作のコントロール課題

坐位姿勢(椅子坐位)で腰(骨盤)をたてる。

膝立ち位での直姿勢づくり。

立位での直姿勢づくり、姿勢保持。

立位姿勢で左右に重心を移動する。

立位姿勢で一步踏みだし、前後に重心を移動する。

・立位姿勢で膝のまげ伸ばしをする。

・歩行

*動作のコントロール課題のねらい

適切な動作の修正・改善または、動作の習得を目的とする。同時に動作の修正・習得に伴って、自ら楽に動かせるからだを実感することをねらいとする。

参考文献:

『痴呆性高齢者の動作法』

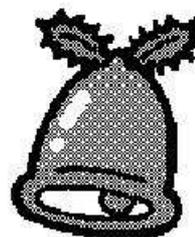
中島 健一

中央法規出版

『高齢者・障害者の介護』

金井一葉・中島健一・下垣光

中央法規出版



2002.11.16 奈良女子大学 文学部北棟103教室で行われた
 「平成14年度 第1回強度行動障害について理解を深める会研修会」
 主催：奈良県重症心身障害児（者）を守る会
 共済：社団法人奈良県手をつなぐ育成会
 社団法人日本自閉症協会奈良県支部で使用された資料

テーマ：

強度行動障害を示している人達への支援について

講師：川崎医療福祉大学教授
 佐々木正美 氏

(資料A)

自閉症講義ノート/コミュニティカレッジ倉敷から

視覚的構造化

- バリアフリー / 共存のために -

佐々木 正美
 川崎医療福祉大学

1 .

この場所の意味 / ここで何が起きるのか

教室と廊下の境界線の意味が分からなかった、
 (Grandin, T.)

一つの場所が二つ以上の意味をもつ時、場所の意味 / 目的が変わる時の混乱一つめ場所に一つの意味や活動目的を与える境界線、仕切り、家具、カーペット、その他ここで何をするのか / 理解、学習

2 . 今、何をするのか / 次に何があるのか

スケジュールを視覚的に提示 / 文字、写真、絵、実物、その他

トランジション / 移行、切り替え、確認

3 . 何を、どのように、どれだけするのか

学習、課題、作業の組織化 / ワークシステム(ワークオーガニゼーション)

自立的に学習 / 作業 / 活動ができるように
 視覚的に肯定的に指導 / 支援する(決して否定的でなく)

参考

(a)Wing L:自閉症の人たちは、私たちが意味づけている時間や空間に、自分自身を位置づけることができない。だから彼らの方から私たちの世界に入ってくることはできない。

私たちが彼らの世界に十分に近づいてから、私たちの世界に入ってくる道筋を、一人一人に手をとって示してやらなくてはならない。

(b)Howlin, in, P:人間は誰でも、自分の周囲で起きていることが理解できず、自分の意志や要求の伝え方も分からず、刻々起こる環境の変化の意味や見通しも分からず、その上苦悩や問題の解決のための想像力もはたらかないとしたら、いったいどのような反応や行動を起こしてしまうだろう。

(c)Schopler E:あなたがたの周囲の世界には、このような美しい意味があることを伝えたい。そのために、自閉症の人が感じ、理解していることと、私たちが意味づけていることの間にあるさまざまなギャップを、ていねいに埋め合わせていく努力をしたい。

(d)Mesibov, G.:自閉症の人たちと意味のあるコミュニケーションをしようことで、共存し合いたい。

(資料B)

自閉症 / 広汎性発達障害
 障害 / 特性:TEACCHモデル入門 -
 佐々木 正美
 川崎医療福祉大学

序 誤解 / 無理好から理解へ

発達障害のなかでも、自閉症の生徒の世界(知覚、認知、理解、意味)は、長い年月にわたって誤解や無理解にさらされたままであった。それが近年全世界で、導入・普及がなされて、わが国でも周知のTEACCHプログラムによって、その特性 /

文化がよく解明と理解がなされることになった。高機能自閉症といわれる、知能の高い自閉症の本人が、自らの体験を語って教えてくれるようになったことも有意義である。

1. 視覚的学習者

自閉症生徒の特性はまず、彼らが視覚的な世界に親和性が大きいことである。目に見える刺激や情報を手がかりに、学習や適応をしているという事実である。この特性は、知能や言語の発達がよい生徒の場合でも例外ではない。知的発達のよい人のなかには、意味や概念を視覚的な映象などに変容 / 音訳して、理解しようとしている生徒さえいる。

2. シングルフォーカス / モノトラック

次いで重要な彼らの特性は、同時に複数の情報を処理することができないということである。いつも一度には一つの狭い世界にしか、認識や関心の焦点を当てることができないということである。だから教育は、常時、一つ一つの教材、課題、主題に集中すればよいように、調整して与えられなければならない。

同時に複数の教材や課題の処理が必要とされる学習場面の用意は、それが可能かどうかの事前確認を前提とするべきである。モノトラックともいわれるこの特性は、認知・認識の領域にとどまらず、運動の機能面にもあり、彼らはトランポリンは得意で好んでするが、上下肢を同時に機能させる縄跳びになると、極端に困難になってしまう。

3. 時間割 / スケジュール

予期しないことが起きた場合の混乱や困惑の大きさは、自閉症でない者の想像をはるかに越える。だから必ずといってよいほど、時間割の予告が必要である。スケジュールの伝達も、文字や絵などで視覚的になされなければならない。それがいない状況で、安定した適応や学習が可能な自閉症生徒はいない。

4. 時間・空間 / 意味・概念

自閉症の人は時間と空間の中に自分を位置づけ

ることが困難である。一つの場所が複数の目的で用いられると、意味を失って不適応に陥ることが多いことも、教育者は承知しておかなければならないと思う。

5. 否定ではなく肯定で

視覚的な学習者といわれることは、想像力が乏しいということである。だから物事を否定的に伝えると意味を失う。教育や指導はもとより、意味を伝えるためには肯定的にしなければならない。以上、自閉症 / 広汎性発達障害の理解のために、近年の神経心理学的知見を紹介した。

「障害児の授業研究」誌、2002年夏号(明治図書)のための予稿



編集後記

今年も後少しになりました。健康に留意され良いお年をお迎えください。支部ニュースについての感想、ご意見等がありましたら、宍戸（0742-49-3855）までか、または、最寄りの支部役員までお願いします。